

# 本学創立102周年式典



東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼 中原 泉  
編集人  
発行日 偶数月末日  
定価 1部10円  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市中央区浜浦町1-8  
☎ 025 (267) 1500



ルーディングハウゼン名誉博士

## 二百余名が参列 名誉博士号授与式を併催

本学の創立一〇二周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見において挙行された。ヴュルツブルク大学のルーディングハウゼン名誉教授の本学名誉博士号授与式が併催された。

日本歯科大学創立一〇二周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見において挙行された。ヴュルツブルク大学のルーディングハウゼン名誉教授の本学名誉博士号授与式が併催された。



神前に玉串を奉奠する中原理事長・学長

神事ののち、中原泉理事長・学長が挨拶に立ち、創立一〇二周年に際し、共に祝える喜びを述べた。(要旨二面)

つづいて光安一夫校友会会長は、「校友の中には、日本歯科大学卒業生が何人もいる家庭がある。また女性の卒業生が校友会にどう関われるか、真剣に考えなければならぬ。さらに校友にとつて一番の絆は愛校心だが、理念的な問題なので、在籍している学生と将来の歯科医師の在り方や理想像を語り合うことが必要だろう」と挨拶した。

つづいて、影山幾男教授(新潟生命歯学部解剖学第一講座)の通訳により、ルーディングハウゼン名誉博士は、現在、過去を通じてドイツと日本は、文化と学問において実り多い交流を続けてきた。両国間最初文化と学問の普及をもたらした人は、南ドイツのヴュルツブルク出身のフランツ・フォン・シーボルトである。

私たちは、ドイツと日本との間に精神的な繋がりを感している。今日という日に、日本歯科大学

の名誉博士号をいただくことは、私にとって至上の幸せである。感謝のしるしとして、ドイツロマン派時代の巨匠カスパー・デビット・フィリップ・ドリの絵を贈りたい」と述べ、中原理事長に有名風景画が贈呈された。

ついで、列席の名誉教授が紹介されたあと、永年勤続者表彰に移る。永年勤続三十年十二名、二十年十一名(二面に氏名



ル名誉博士(右端)から風景画を贈られた中原理事長

☆ヴュルツブルク大学  
ドイツ・バイエルン州ヴュルツブルクにある総合大学で、一四〇二年創立、現在は十二学部を有する。第一回ノーベル賞を受賞したW・レントゲンは、同大学物理学教授のとき、エックス線を発見した。日本からは解剖学の足立文太郎や病理学の田原淳など、著名な学者が多数留学している。

掲載)が呼び上げられて三分の二の長きにわたるお世話になっている。私の人生そのものが、日本歯科大学にあると言っても過言ではない。私が学んだ昭和四十年代は歯科大学・歯学部の新設ブームの時代だったが、四十年後の現在、全く反対の方向に様変わりしている。その中で日本歯科大学では、将来を見据

えて様々な改革を進めている。これからは大学の発展のために柔軟な思考を維持しつつ、各々の部署で各自全力を果たす覚悟でいる」と述べた。

おわりに、元合唱部顧問の西田紘一准教授(附属病院口腔外科)の指揮により校歌を斉唱し、正午に閉式した。

### 東理(新潟)、森田(新潟)教授 最終記念講義



東理十三雄教授  
「歯科麻酔学の使命―歯科領域における全身管理―」と題する最終記念講義には、多数の教職員、大学院生、学生が聴講し講義終了後に花束と記念品が贈呈された。

「歯科麻酔学の使命―歯科領域における全身管理―」と題する最終記念講義には、多数の教職員、大学院生、学生が聴講し講義終了後に花束と記念品が贈呈された。



森田修己教授

Sparkling!  
Hamaura Festival 2008  
日時 2008年6月14日(土)、15日(日)  
場所 日本歯科大学新潟生命歯学部

# 新潟病院 デジタル化第一弾PACSを導入

## 学生実習にもデジタルエックス線画像



歯科用エックス線のIPスキャナー



デジタル画像を用いた放射線科実習

新潟病院と医科病院では、本年四月にPACS (Picture Archiving and Communication System) を導入した。これは、主にCT、MRI、エックス線フィルムなどの医療用画像データをネットワーク上で蓄積・配信するシステムであり、画像を

モニターで見ることが可能なこと、フィルムレスには欠かすことのできない医療情報システムである。

今回、新潟病院では口腔外科、小児歯科、矯正歯科、インプラントセンターおよび学生指導室に、医科病院では病棟の

モニターを配備した。今後は完全フィルムレス化および電子カルテ化に向けて順次モニターを配置する予定。

このPACSの導入には、韓国インフェニット社製を選択した。医療の電子化は韓国が世界の最先端であり、デジタルエ

ックス線十枚法、十四枚法を保存できる世界唯一のメーカーである。

これに合わせて、第五学年の放射線科病院実習において、従来から行われていた相互撮影実習を、IP方式のデジタルエックス線実習に切り替えた。昨年マルチメディア実習室に、C/D方式のデジタルエックス線装置が配置されており、学生は双方のデジタルエックス線装置を把握できることになる。

今回はイメージスキャナー(デジタル社製DSC)を二台導入し、新潟病院学生指導室では、モニターを十台配置して自分の撮影した画像を確認し、教員も研究室のPC上で確認を行うことができる。学生個々にPCを配置し、画像確認等が行える環境は全国初である。

なお、この設備整備は、文部科学省の平成十九年度私立大学等研究設備整備費補助金を受けたもの。

学部に付いては、来年の入試状況を見て、次の年のやり方を考えたい。創立記念式典に明るい話ではないが、先人に感謝し、皆さまと共に創立一〇二周年を祝いたい。

(要旨)

学部に付いては、来年の入試状況を見て、次の年のやり方を考えたい。創立記念式典に明るい話ではないが、先人に感謝し、皆さまと共に創立一〇二周年を祝いたい。

(要旨)

学部に付いては、来年の入試状況を見て、次の年のやり方を考えたい。創立記念式典に明るい話ではないが、先人に感謝し、皆さまと共に創立一〇二周年を祝いたい。

(要旨)

学部に付いては、来年の入試状況を見て、次の年のやり方を考えたい。創立記念式典に明るい話ではないが、先人に感謝し、皆さまと共に創立一〇二周年を祝いたい。

(要旨)



創立記念の挨拶をする中原理事長

日本歯科大学創立一〇二周年を参列の皆さまとお祝いできることを大変喜んでいる。ここへ来る前に大手町の創立記念碑にお参りしてきた。大手町に創立されたのは明治四十年で、四十二年に富士見町に移転したので、

ここに居を構えてから今年で百周年となる。その当時は、市ヶ谷寄りに牛込駅があり、水道橋寄りに飯田町駅があった。昭和三年に、両駅を合併して飯田橋駅が作られた。おかげでキャンパスから真つ直ぐ神楽坂の

方になると、飯田橋駅へ着くありがたいの利になった。

そして昭和三十年に飯田橋駅前の角地を買収することができた。元は旗本屋敷のあったところで、これにより昭和六十二年から本館キャンパスと駅前キャンパスの両方を活用して今日に至っている。都内でも最高の立地条件といつてよいと思う。創立当時から、この都内の最高の場所でも活動できることに感謝を捧げなければならぬ。

十八歳人口は最高の時に二百二十万人だったが、近いうち二百二十万人になるようだ。昨年は四年制大学の四十パーセントが入学定員割れし、二十校が

五パーセントを割った。歯科の私立の十七校の前期の入学試験の総数は、ピーク時の平成八年に一万一千名だったが、十二年後の今年受験者は五千六百人と、五十一パーセントに減少した。私は五、六年前から歯学部にも入定割れが来ることを内外で話してきた。ほとんどの方がノホンとして、自分の学校は大丈夫という感じだったが、今年いよいよ入定割れが表面化した。本学はこの五年間にわたり準備を整えてきたので、準備万端に対応できている。

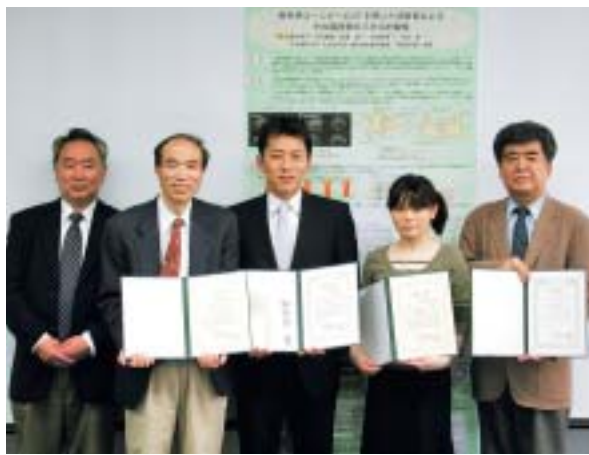
新潟生命歯学部は百二十名の入学定員で、二十パーセント削減して九十

六名の募集定員のところ、今年の結果は十三名が欠員となった。八十三名の入学者で、十三・五パーセント減少した。後期試験の倍率は四倍ぐらいだったが、入学して国家試験までいける学力の受験生は、このへんが限界というのであった。だから、入定割れが起こるのは分かっていった。

今年入定割れが明らかになったのは、松本歯科大学と新潟生命歯学部だが、内実はどこも同じだろう。学生が入らないと学費収入が減り、文部科学省の補助金も減らされるというダブルパンチを食らうので、見込みのない学生でも入学させれば定員の数は揃う。しかし基礎学力のない学生は、どんなにネジを巻いても国家試験までの六年間の

持久は難しいことは経験から分かっている。そういう学生を入学させ、本人も父母も教員も、三者が苦しまなくてはならない事態は避けたいということである。学費収入が減ることは経営に直結する事態だが、それはまた別の形で検討していく。本学は、入学生の学力を優先したことをご理解いただきたい。新潟生命歯

持久は難しいことは経験から分かっている。そういう学生を入学させ、本人も父母も教員も、三者が苦しまなくてはならない事態は避けたいということである。学費収入が減ることは経営に直結する事態だが、それはまた別の形で検討していく。本学は、入学生の学力を優先したことをご理解いただきたい。新潟生命歯



受賞したポスターを前に、放射線学講座と解剖学講座の教室員(名古屋国際会議場)

生命歯学部放射線学講座の浅海利恵子臨床研究生は、第四十九回日本歯科放射線学会大会でポスター賞を受賞した。本年五月に開催された放射線学会では、生命歯学部解剖学第一講座との共同研究の成果を「歯科用コンピュータを用いた切歯管およびその周囲骨の三次元的観察」の演題でポスター発表し、同研究生二度目の受賞となった。

歯科放射線学講座(代居敬教授)では、平成十八年度に浅海大学院生、平成十九年度に河合泰輔講師が受賞しており、今回で三年連続の受賞である。なお、本年度は河合講師が、Oral Radiology誌に投稿した下顎舌側孔の検討も学会奨励賞を受賞している。同講座のダブル受賞となった。これらの業績は、解剖学第一講座(佐藤慶教授)との共同研究の成果で、基礎系と臨床系講座の協力が実ったものである。

生命歯学部放射線学講座の浅海利恵子臨床研究生は、第四十九回日本歯科放射線学会大会でポスター賞を受賞した。本年五月に開催された放射線学会では、生命歯学部解剖学第一講座との共同研究の成果を「歯科用コンピュータを用いた切歯管およびその周囲骨の三次元的観察」の演題でポスター発表し、同研究生二度目の受賞となった。

生命歯学部放射線学講座の浅海利恵子臨床研究生は、第四十九回日本歯科放射線学会大会でポスター賞を受賞した。本年五月に開催された放射線学会では、生命歯学部解剖学第一講座との共同研究の成果を「歯科用コンピュータを用いた切歯管およびその周囲骨の三次元的観察」の演題でポスター発表し、同研究生二度目の受賞となった。

### 東京放射線学会ポスター賞を三年連続受賞

- ☆三十年勤続表彰(生命歯学部)
  - 勝海一郎(保存学)
  - 立花律子(校友会本部)
- (新潟生命歯学部)
  - 石山巳喜夫(解剖学Ⅱ)
  - 羽山和秀(放射線学)
  - 宮川行男(先端研)
  - 石田八郎(庶務部)
  - 内藤裕子(図書館)
  - 桜井悦子(院務部)
- (新潟病院)
  - 佐野公人(麻醉管理)
  - 足立泰儀(薬剤室)
  - 渡辺光博(放射線科)
- (医科病院)
  - 中菜正隆(臨床検査科)
  - ☆二十年勤続表彰(生命歯学部)
    - 遠藤敬和(物理学)
    - 戸田智幸(共同利用研)
    - 渡邊 功(公認会計士)

### 平成20年度東北地区歯学研修会

日時：2008年10月18日(土) 13:00  
 場所：ホテルメトロポリタン盛岡・ニューウイング 岩手県盛岡市盛岡駅前北通2-27  
 メインテーマ：咬合・咀嚼を考える

- 咬合・咀嚼機能の客観的評価法  
 生命歯学部歯科補綴学第一講座 教授 志賀 博
- インプラントとクラウン・ブリッジの咬合  
 一動くものと動かないものの狭間で  
 新潟生命歯学部歯科補綴学第二講座 准教授 多和田泰之
- 咬合性外傷の理論とその臨床応用  
 生命歯学部歯周病学講座 講師 関野 倫

# 新 歯周病をなおそう

編著：鴨井久一 著：沼部幸博

『歯周病をなおそう』を大成功裏に修正した新編ができました。

ISBN978-4-901894-64-7

定価6,090円(税込)

砂書房

〒113-0033 東京都文京区本郷3-13-5  
 TEL 03-3814-6251 FAX 03-3814-6285  
 http://www.sunashobo.com

### 辞令

主事補 羽下 憲善  
 学校法人人事部副部長併任を命ずる(新潟生命歯学部庶務部)

小田典子(看護科)  
 竹石秋子(看護科)

柴田聡彦(口腔外科)  
 (新潟生命歯学部)  
 大熊一夫(理工学)  
 桑野結香(耳鼻咽喉科学)  
 永井政義(用度管理課)  
 (新潟病院)

平成二十年四月一日 本学

文学修士 酒井サヤカ  
 歯学博士 東理十三雄  
 名誉教授の称号を授与する  
 平成二十年七月一日 本学

訂正  
 本紙五七五号の「人事異動」欄新潟病院総合診療科助教・織田洋武「大学院新潟生命歯学研究科修了」を「大学院生命歯学研究科修了」に訂正